

アートを用いた地域活性化に関する研究

—横浜市中区初黄・日ノ出町地区を事例に—

In Search for Regional Activation Based on Using Art:

A Case Study of Hastuko-Hinode Area, Naka District, Yokohama City

石原 歩

ISHIHARA Ayumi

キーワード：アート，地域活性化，横浜，初黄・日ノ出町

Keywords: art, regional activation, Yokohama, Hatsuko-Hinode area

1. 研究の背景と目的

日本において、国を挙げて活性化が必要とされる地域は時代とともに変遷しており、近年は都市部がその対象とされる傾向にある。また、対象地域の変化に伴い、その手法も多様化している。特にアートという手法を用いた地域活性化の取り組みは近年増加しており、現在地域振興を目的とした100以上のアートプロジェクトが全国に広がっている(熊倉 2014)。しかし、その一方で、イベントとして完結してしまい、地域に根付かず一過的なものになってしまうなど、継続性の難さが課題として指摘されている(田島ほか 2010)。

横浜市中区に位置する初黄・日ノ出町地区は、風俗街・黄金町と呼ばれ、かつては売春宿街であったという背景を持つ。2006年からアートによる活性化の取り組みがなされ、現在ではクリエイティブなまちとして女性誌に掲載されるほか、家族連れや若い女性たちで賑わうまちとなった(山野 2010)。

本研究では、現在特に重要であると考えられる都市部繁華街における地域活性化に着目し、その中でも近年増加している、アートを手法として用いた取り組みの成功事例である横浜市中区初黄・日ノ出町地区を対象とし、地域の変遷と取り組みの内容を分析することで、変容過程と活性化のメカニズムを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法と手続き

本研究では、文献研究と現地調査を行った。

3. 研究の概要

本研究は6章で構成されている。

第1章では、研究の背景・研究目的と研究方法、研究対象地の選定理由を述べた。

第2章では、日本における地域振興の対象となる地域が、時代とともにどのように変化したのかを明らかにするため、地域振興を目的とした法律の変遷を整理した。さらに、「都市再生プロジェクト」を事例に、都市部を対象とした地域活性化の手法を分析し、横浜市の文化政策が先進的であったことを明らかにした。また、横浜市の進める「創造界隈の形成」施策の中で、初黄・日ノ出町地区が重要な位置づけにあることを明らかにした。

第3章では、初黄・日ノ出町地区の歴史的変遷と対外的なイメージ変遷を分析した。周辺地域の影響を受けて風俗街黄金町が成立し、2005年の警察による一斉摘発が行われるまでは約250軒の違法飲食店舗の集積が見られた。2003年、住民による防犯の取り組みが開始され、2006年以降は住民や行政、NPOなど様々な主体が関わりあいながら、アートによる地域活性化の取り組みを進めていることを整理した。

次に、雑誌記事の内容と記事数の推移を分析し、黄金町の持つイメージを以下の4段階に整理した。

- ①第一次マイナスイメージ期：1990～2004年
風俗街のイメージ
- ②第二次マイナスイメージ期：2005～2006年
衰退した風俗街のイメージ
- ③イメージ混在期：2007～2009年

